

基礎研 レポート

女性のライフコースの理想と現実 最も人気の「両立コース」の実現度は3割弱。就労継続の鍵は？

生活研究部 主任研究員 久我 尚子
(03)3512-1878 kuga@nli-research.co.jp

1—はじめに～M字カーブは解消傾向、子育て期も働く女性が増加。女性の理想のライフコースとは？

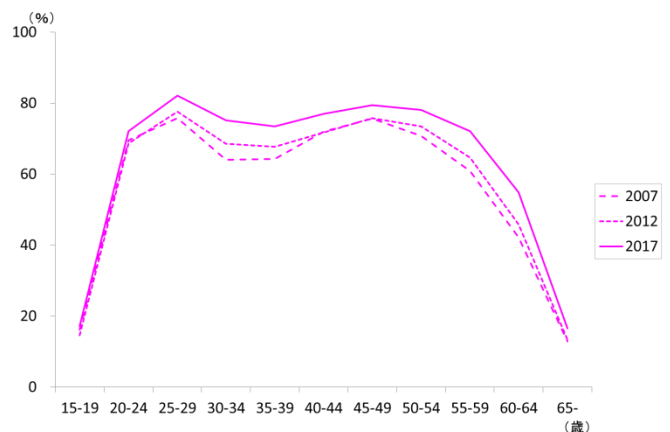
M字カーブは解消傾向にあり、子育て期も働く女性が増えている。M字カーブは、就業率の高い未婚女性が増えることによっても底上げされるのだが、近年の底上げ要因は、主に既婚女性の就業率の上昇によるものだ¹。政策の後押しもあり、今後とも仕事と子育てや介護を両立するための環境整備が進むことで、働く女性は増えるだろう。

一方で、そもそも女性達はライフコースに対して、どのような希望を持っているのだからか。

かつては学校卒業後に就職し、適齢期に結婚をして寿退社、あるいは出産で退職し、子育てが落ち着いたらパートなどで働き始めるというように、皆、同じようなライフコースをたどっていた。しかし、M字カーブの底上げが進む通り、結婚・出産後も働き続ける女性は増えている。また、未婚化・晩婚化、晩産化が進み、同じ年齢でもライフコースは多様化している。

本稿では、現代女性の理想のライフコースとあわせて、実際に歩んでいる現実のライフコースも捉えることで、両者のギャップの有無を把握する。また、女性のライフコースの中でも特に課題が多いであろう、結婚・出産をして、その後も働き続ける「両立コース」を実現している女性の特徴を分析する。分析には、ニッセイ基礎研究所が実施した25～59歳の女性5千人を対象にした調査²のデータを用いる。

図表1 女性の労働力率の変化



(資料) 総務省「労働力調査」より作成

¹ 久我尚子「『M字カーブ』底上げの要因分解」、ニッセイ基礎研究所、基礎研レポート (2017/12/21)

² 「女性のライフコースに関する調査」、調査時期は2018年7月、調査対象は25～59歳の女性、インターネット調査、調査機関は株式会社マクロミル、有効回答5,176

2—現代女性の理想のライフコース

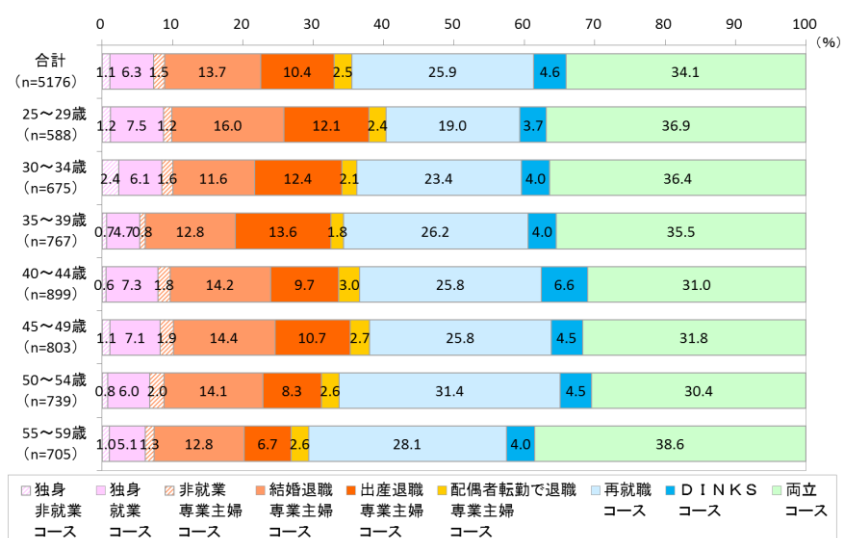
1 | 理想のライフコース～「両立」や「再就職」の『働く母親コース』が6割、若いほど「両立」が多い

現代女性は、どのようなライフコースを理想としているのだろうか。25～59歳の女性で最も多いのは「両立コース」(34.1%)であり、次いで、結婚や出産などを機に退職し、その後、また働き出す「再就職コース」(25.9%)、そして、退職後は専業主婦となる「結婚退職・専業主婦コース」(13.7%)、「出産退職・専業主婦コース」(10.4%)と続く(図表2)。

年代別に見ると、50～54歳以外は「両立コース」が最多で3割を超える。次いで「再就職コース」が多い。50～54歳では、「再就職コース」(31.4%)が「両立コース」(30.4%)を若干上回っている。つまり、年齢階級別に見ても「両立コース」や「再就職コース」を理想とする女性が多い。また、55～59歳を除けば³⁾、年齢が若いほど「両立コース」を理想とする女性が多い傾向がある。なお、『働く母親コース』を理想とする割合は、年齢によらず6割前後である。

3位以下は、いずれの年齢階級でも、「出産退職・専業主婦コース」や「結婚退職・専業主婦コース」が続いており、30代では出産退職が、40～50代や25～29歳では結婚退職の方が多傾向がある。この背景には、30代では、40代以上と比べて女性の社会進出が進み、近年の政策の後押しもあって、育児休業制度や時間短縮勤務制度などの仕事と子育ての両立環境の整備が進んでいる可能性がある。

図表2 「あなたが理想とする(理想としていた)ライフコースに最も近いものをお聞かせください」(単一回答)



(注) 選択肢は下記の9つ

- ①独身非就業コース(学校卒業後に仕事に就かずに、独身)
- ②独身就業コース(学校卒業後に仕事に就き、独身)
- ③非就業・専業主婦コース(学校卒業後に仕事に就かずに、結婚)
- ④結婚退職・専業主婦コース(学校卒業後に仕事に就き、結婚を機に退職、その後は仕事をしない)
- ⑤出産退職・専業主婦コース(学校卒業後に仕事に就き、出産を機に退職、その後は仕事をしない)
- ⑥配偶者転勤で退職・専業主婦コース(学校卒業後に仕事に就き、配偶者の転勤を機に退職、その後は仕事をしない)
- ⑦再就職コース(学校卒業後に仕事に就き、結婚または出産、配偶者の転勤などを機に退職したが、再び仕事をする)
- ⑧DINKSコース(学校卒業後に仕事に就き、結婚するが子どもを持たず、仕事を続ける)
- ⑨両立コース(学校卒業後に仕事に就き、結婚または出産後も、仕事を続ける)

³⁾ 55～59歳で「両立コース」を理想とする割合が高い背景には、例えば、「男女雇用機会均等法」が施行される前の世代であるために女性が働き続けることへの権利意識が強い可能性のほか、ネット調査のモニター属性の影響などが考えられる。

2 | 属性別に見た理想のライフコース～大学院卒や大卒(共学)、高専卒で「両立」が多く、働く母の影響も大

どんなライフコースを理想とするのかには、年齢(世代)のほか、居住地域や最終学歴、職業、女性の母親が働いていたかどうかなどの影響も予想される。

これらの違いについても見ると、居住地域については、地域による大きな違いは見られず、いずれも「両立コース」が最多で、次いで「再就職コース」が多い(図表3)。

最終学歴については、短期大学卒以外は、いずれも「両立コース」が最多で、「再就職コース」が続く。短大卒は「再就職コース」が最多で、僅差で「両立コース」が続く。このほか全体と比べて、中学校卒で「結婚退職・専業主婦コース」が、高等専門学校卒や大学卒(共学)、大学院卒で「両立コース」が、大学卒(女子大)で「出産退職・専業主婦コース」が多い傾向がある。これを見ると、女性が結婚・出産後も働き続けたいかどうかは、高専卒や大学院卒など専門性の高い職に従事しやすい学歴を保有しているかどうかのほか、同じ大学卒でも共学か女子大かで違いがあることから、女性が働くことについての価値観や受けた教育環境の違いの影響もうかがえる。なお、本調査では、働くことに関する意識についても調査しており、大学院卒や大学卒(共学)では「女性が高い地位や管理職についてもかまわない」や「専業主婦として家庭に専念するより、少しでも働いていたい」といった女性が外で働くことを重視するような志向が強い傾向がある⁴。

また、女性のライフコース選択には身近なモデルとして母親の影響もあるだろう。母親のライフコース別には、母親が「再就職コース」以外は、いずれも「両立コース」が最多で、次いで「再就職コース」が多い。母親が「再就職コース」では、女性自身の理想も「再就職コース」が最多である。このほか全体と比べて、母親が「結婚退職・専業主婦コース」であれば女性自身も理想は「結婚退職・専業主婦コース」が多いというように、母親と同じコースを理想とする割合が高い傾向もある。なお、母親が「両立コース」や「再就職コース」の『働く母親コース』であると、この傾向がより強い。

図表3 属性別に見た女性の理想のライフコース

	度数	合計 (%)	独身非就業コース	独身就業コース	非就業専業主婦コース	結婚退職専業主婦コース	出産退職専業主婦コース	配偶者転勤で退職専業主婦コース	再就職コース	DINKSコース	両立コース
全体	5176	100.0	1.1	6.3	1.5	13.7	10.4	2.5	25.9	4.6	34.1
居住地域											
北海道	220	100.0	1.4	6.4	1.8	17.3	8.2	2.3	22.7	5.0	35.0
東北地方	348	100.0	0.3	5.7	1.7	9.8	10.1	2.6	26.4	4.3	39.1
関東地方	1817	100.0	0.9	7.0	1.8	13.4	10.8	2.7	24.4	5.9	33.0
中部地方	918	100.0	1.1	5.0	1.3	13.0	8.6	2.3	29.1	4.4	35.3
近畿地方	856	100.0	1.1	6.4	1.6	14.3	11.9	2.0	27.2	4.0	31.5
中国地方	289	100.0	1.4	4.8	0.7	14.2	9.7	1.7	26.6	2.4	38.4
四国地方	148	100.0	1.4	8.1	1.4	17.6	12.8	0.7	22.3	4.1	31.8
九州地方	580	100.0	1.7	6.0	1.0	14.7	10.7	3.6	24.8	2.8	34.7
最終学歴											
中学校卒	115	100.0	4.3	9.6	4.3	20.0	12.2	3.5	18.3	3.5	24.3
高等学校卒	1474	100.0	1.2	6.9	1.7	14.9	11.1	2.9	26.0	5.0	30.3
高等専門学校卒	117	100.0	1.7	3.4	4.3	11.1	9.4	1.7	18.8	7.7	41.9
専門学校卒	886	100.0	0.7	5.2	1.5	12.8	11.4	2.7	26.0	4.7	35.1
短期大学卒	962	100.0	0.9	5.4	0.9	15.9	9.7	2.6	31.7	3.1	29.7
大学卒(女子大)	324	100.0	0.3	7.7	0.6	13.3	15.7	2.8	24.4	5.6	29.6
大学卒(共学)	1198	100.0	1.1	6.6	1.5	11.3	8.4	1.8	23.8	4.6	41.0
大学院卒	94	100.0	2.1	5.3	2.1	7.4	4.3	0.0	14.9	4.3	59.6
その他	6	100.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	33.3
母親のライフコース											
非就業・専業主婦コース	379	100.0	4.5	8.4	3.4	11.9	9.2	2.1	22.2	6.1	32.2
結婚退職・専業主婦コース	1137	100.0	1.1	8.3	1.1	20.0	10.4	2.5	23.0	4.8	28.8
出産退職・専業主婦コース	498	100.0	0.8	4.0	2.8	18.3	22.9	2.6	19.7	3.2	25.7
配偶者の転勤で退職・専業主婦コース	119	100.0	0.8	5.0	4.2	9.2	16.0	14.3	19.3	7.6	23.5
再就職コース	1621	100.0	0.6	5.6	0.7	11.4	8.0	2.2	37.4	3.6	30.5
両立コース	1309	100.0	0.6	5.0	1.5	10.8	8.7	1.8	18.3	5.2	48.1
その他	113	100.0	2.7	14.2	2.7	6.2	8.8	2.7	24.8	6.2	31.9

(注) 斜字は参考値。全体より±5%に網掛け。

⁴ 本稿で用いた定量調査は一般財団法人社会文化研究センターの助成研究「子育て世帯の消費実態～女性の働き方による価値観の違いに注目して」(平成30年8月)として行ったものであり、今後、研究成果の詳細をWebで公開予定。

職業については、結婚や出産などのライフステージの変化で働き方が変わる女性も多いだろうが、「両立コース」を理想とする割合は、現在の職業が公務員や正社員・正職員、自営業・自由業で多くなっている（いずれも半数程度）。

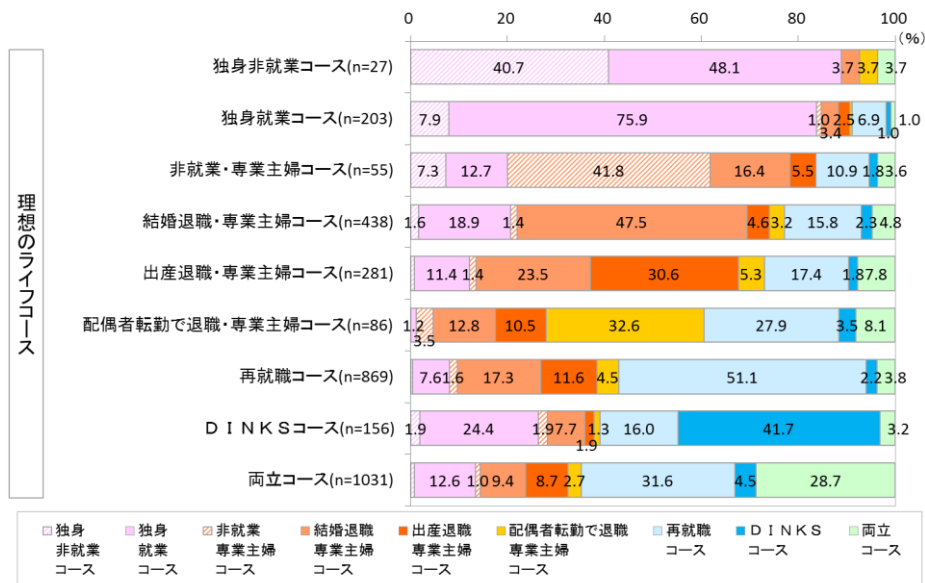
3—現代女性のライフコースの理想と現実

1 | ライフコースの理想と現実～40・50代女性の実現度は4割、最も人気の「両立コース」の実現度は3割弱

さて、現代女性の理想のライフコースは、全体で見ても属性別に見ても、「両立コース」や「再就職コース」の『働く母親コース』の人气が高かった。一方で、女性達は現実的には、どのようなライフコースを歩んでいるのだろうか。ここでは、ライフコースが固まりつつある40～50代の女性を対象に、理想と現実のギャップを確認する。

40～50代の女性で理想のライフコースと現実のライフコースが一致している割合は41.8%である。理想のライフコース別に、現実のライフコースの状況を見ると、理想が「独身非就業コース」と「両立コース」以外では、理想が「結婚退職・専業主婦コース」であれば現実も同じコースというように理想通りのライフコースを歩んでいる割合が最も高くなっている（図表4）。なお、理想が「独身非就業コース」では現実には「独身就業コース」が、「両立コース」では現実には「再就職コース」が最多である。前者は働きたくなかったが働いている、後者は仕事を辞めたくなかったが、結婚や出産で一旦辞めざるを得なかったという様子が見えてくる。

図表4 女性のライフコースの理想と現実（40～50代）



(注1) 40～50代の女性について、図表2の設問の回答結果と「あなたのこれまでのライフコースに最も近いものをお聞かせください。」(選択肢は図表2と同じ)の回答結果をクロス集計したもの。
 (注2) 理想のライフコースが「独身非就業コース」は参考値

さらに、理想のライフコース別に、理想と現実の一致度（実現度）をランキングとして見ると、実現度が最も高いのは「独身就業コース」で7割を超える（図表5）。次いで「再就職コース」や「結婚退職・専業主婦コース」が続く、それぞれの実現度は5割程度である。一方、理想のライフコースとして最も人気の高い「両立コース」の実現度は、9つのライフコースの中で最下位であり、実現度は

3割に満たない。つまり、「両立コース」を理想とする女性が最も多いにも関わらず、現実的には7割が実現できていない。

ライフコースによる実現度の違いは、例えば「独身就業コース」では主に本人の意志のみで決定できる一方、「両立コース」は結婚できるかどうか、出産できるかどうか、そして、結婚・出産後も働き続けられるかどうかというように、本人の意志のみでは決められない要因が複数あるなど、要因の種類と数の違いによるものだろう。

なお、一連の専業主婦コースは「再就職コース」と比べて要因の数が少ないようにも見えるが（再び仕事に就けるかどうかという要因が無い）、実現度は「再就職コース」の方が高い。この背景には、長らく続いた景気低迷の中で配偶者の経済状況が過去と比べて厳しくなったために、再び仕事に就くことよりも配偶者の収入だけで生活ができることの方が実現は難しくなっていることがあるのだろう。

図表5 40～50代の女性の理想のライフコースおよび理想と現実の一致度のランキング（n=3146）

理想のライフコース		理想と現実の一致度（実現度）	
1位	両立コース（32.0%）	1位	独身就業コース（75.9%）
2位	再就職コース（27.6%）	2位	再就職コース（51.1%）
3位	結婚退職・専業主婦コース（13.9%）	3位	結婚退職・専業主婦コース（47.5%）
4位	出産退職・専業主婦コース（8.9%）	4位	非就業・専業主婦コース（41.8%）
5位	独身就業コース（6.5%）	5位	DINKSコース（41.7%）
6位	DINKSコース（5.0%）	6位	独身非就業コース（40.7%）
7位	配偶者転勤で退職・専業主婦コース（2.7%）	7位	配偶者転勤で退職・専業主婦コース（32.6%）
8位	非就業・専業主婦コース（1.7%）	8位	出産退職・専業主婦コース（30.6%）
9位	独身非就業コース（0.9%）	9位	両立コース（28.7%）

2 | 「両立コース」を実現している女性の特徴～若い世代、中部地方や九州地方、正規雇用者、母親も「両立コース」、実家の手助け、若い世代では義理の実家の手助けも、体力あり

さて、「両立コース」を理想通り実現している女性には、どのような特徴があるのだろうか。ここでは、理想のライフコースを「両立コース」と回答した女性のうち母親を対象に、現実も「両立コース」を歩んでいる女性と、それ以外のコースを歩んでいる女性の違いを分析する。前項のように年齢を限定しない理由は、年齢が若くても既に母親であれば「両立コース」の実現可否を把握できるためだ。

比較結果を見ると、「両立コース」を実現している女性は、30代など女性の社会進出がより進んだ若い年代が多い（図表6）。また、居住地域は中部地方や九州地方で比較的多い。中部地方のうち、福井県や富山県などの北陸地方は、M字カーブのくぼみが最も浅く（厚生労働省「平成28年版働く女性の実情」）、子育て期の離職が少ない地域だ。なお、同報告書によれば、九州・沖縄地方も同様にM字カーブのくぼみが浅い地域となっている。

このほか、「両立コース」を実現している女性は、最終学歴は大学卒（共学）や専門学校卒で、母親のライフコースは「両立コース」で、就業状態は「正規雇用者（経営者含む）」で、年収は「300～700万円未満」で、配偶者の就業状態は「正規雇用者（経営者含む）」で、配偶者の年収は「300～500万円未満」で、義理の実家との距離は「別居」で、体力の程度は「どちらかと言えば体力のある方」から「どちらともいえない」で多い傾向がある。

就業状態については、前述の通り、結婚や出産などのライフステージの変化で働き方が変わる女性

図表6 理想が「両立コース」で現実が「両立コース」以外と理想通り実現している女性の比較

	年齢									
	度数	合計 (%)	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	
「両立コース」以外	591	100.0	5.6	10.2	14.4	15.4	17.4	16.6	20.5	
「両立コース」実現	324	100.0	8.6	17.3	21.6	19.1	13.3	7.4	12.7	

	居住地域									
	度数	合計 (%)	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方
「両立コース」以外	591	100.0	5.8	6.9	33.7	18.8	15.1	6.8	2.5	10.5
「両立コース」実現	324	100.0	1.2	9.3	30.9	22.5	13.9	5.9	2.8	13.6

	最終学歴										
	度数	合計 (%)	中学校卒	高等学校卒	高等専門学校卒	専門学校卒	短期大学卒	大学卒(女子大)	大学卒(共学)	大学院卒	その他
「両立コース」以外	591	100.0	1.4	27.4	1.5	16.2	24.0	4.2	23.0	2.0	0.2
「両立コース」実現	324	100.0	2.5	23.8	2.8	20.7	12.7	6.5	29.0	2.2	0.0

	母親のライフコース							再就職コース	両立コース	その他
	度数	合計 (%)	非就業・専業主婦コース	結婚退職・専業主婦コース	出産退職・専業主婦コース	配偶者転勤で退職・専業主婦コース				
「両立コース」以外	591	100.0	9.0	20.1	8.8	2.5	34.0	24.0	1.5	
「両立コース」実現	324	100.0	5.9	16.0	5.9	0.3	22.5	49.4	0.0	

	就業状態					年収					
	度数	合計 (%)	正規雇用者(経営者含む)	非正規雇用者	自営業・自由業	無職等	合計 (%)	収入はない	300万円未満	300～700万円未満	700万円以上
「両立コース」以外	591	100.0	7.3	42.5	4.1	46.2	100.0	38.7	55.5	4.4	1.4
「両立コース」実現	324	100.0	62.7	30.9	6.5	0.0	100.0	2.8	54.3	38.6	4.3

	配偶者の就業状態					配偶者の年収						
	度数	合計 (%)	正規雇用者(経営者含む)	非正規雇用者	自営業・自由業	無職等	合計 (%)	300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1000万円未満	1000万円以上
「両立コース」以外	591	100.0	73.9	8.6	10.7	6.8	100.0	14.9	29.4	25.5	21.5	8.6
「両立コース」実現	324	100.0	79.3	7.4	10.8	2.5	100.0	16.4	39.2	24.4	14.5	5.6

	実家との距離					義理の実家との距離					
	度数	合計 (%)	同居	近居(同じ市区町村内)	別居(同じ市区町村以外)	その他(すでに亡くなっているなど)	合計 (%)	同居	近居(同じ市区町村内)	別居(同じ市区町村以外)	その他(すでに亡くなっているなど)
「両立コース」以外	591	100.0	4.6	28.1	56.5	10.8	100.0	7.4	27.7	49.6	15.2
「両立コース」実現	324	100.0	6.8	30.2	54.0	9.0	100.0	7.7	26.9	53.4	12.0

	体力の程度						
	度数	合計 (%)	体力がない方だ	どちらかと言えば体力がない方だ	どちらともいえない	どちらかと言えば体力がある方だ	体力がある方だ
「両立コース」以外	591	100.0	24.4	36.7	17.3	18.4	3.2
「両立コース」実現	324	100.0	14.2	34.0	21.3	25.9	4.6

(注1) いずれも既婚で配偶者・子ありで、理想のライフコースを「両立コース」と回答した女性。

(注2) 斜字は参考値。「両立コース」以外より±3%に網掛け。

も多いだろう。ただし、実際に「両立コース」を実現している女性では正規雇用者が多いことから、「両立コース」を実現している女性では、仕事と子育ての両立に関わる制度などが整った環境で働いている女性が多い可能性がある。

配偶者の年収は「両立コース」を実現している女性の方が低い傾向がある（高年収における割合が低い）。これは、配偶者の経済力が不高くするために仕事を辞めずに家計を支えている可能性もあるが、若い年代ほど「両立コース」を実現している女性が多いため、配偶者も若くなることで、配偶者の年収が低くなる可能性もある。なお、「両立コース」を実現している女性の平均年齢は42.2歳、それ以外のコースを歩んでいる女性は45.1歳（「両立コース」実現女性+2.9歳）である。

また、実家との距離については、「両立コース」を実現している女性では、同居と近居をあわせると合計37.0%だが、実現していない女性では32.7%（▲4.3%pt）である。よって、おおむね実家の手助けを得やすい環境にある女性の方が「両立コース」を実現しているようだ。もともと実家と同居・近居しているために両立を実現できている可能性もあるが、両立を実現する上で実家を近くに呼び寄せたという可能性もある。一方、「両立コース」を実現している女性では、義理の実家との距離は別居が多かった。これらの状況をあわせると、実家の手助けを得やすい状況にあり、義理の実家の目は遠

くにある女性の方が、結婚・出産後も仕事を辞めずに働きやすいように見える。

しかし、この解釈には注意が必要だ。実は義理の実家との距離は年代によって傾向が異なっている。年齢とともに親と死別した女性が増えるため、特に 50 代ではより詳細を見る必要があるのだが、30 代以下では、「両立コース」を実現している女性の方が実現していない女性と比べて、義理の実家と同居・近居している割合が高い (44.1%⇔37.1%)。一方、40 代 (26.7%⇔40.2%) や 50 代 (24.6%⇔29.2%) では逆である。女性の社会進出が進む中で、親世代も、そして、女性自身も、女性が家の外で働くことに対する価値観が変わることで、若い世代では義理の実家の手助けも上手く得ながら、「両立コース」を実現する女性が増えている可能性がある。

最後に、体力の程度については、「体力がある方だ」と「どちらかと言えば体力がある方だ」を合わせた『体力あり』の割合は「両立コース」を実現している女性の方が高い (30.5%⇔21.6%)。先天的なものか後天的なものかは不明だが、「両立コース」を歩んでいる女性の方が現状は体力があるようだ。

4—おわりに～女性が理想のライフコースを実現するために必要な環境整備は、実は男性にも必要

現代女性の理想のライフコースは、結婚や出産後も働く「両立コース」や「再就職コース」の人气が高く、若いほど「両立コース」が多くなっていった。「両立コース」と「再就職コース」を合わせた『働く母親コース』を理想とする割合は、年齢によらず 6 割前後であった。

一方で、「両立コース」の実現度は、今回の調査で例示した 9 つのライフコースの中で最も低く、3 割に満たなかった。それは、「両立コース」を実現するには、結婚できるかどうか、出産できるかどうか、出産後も働き続けられるかどうか、という本人の意志のみでは決定できない要因が多いためだ。

実際に理想通り「両立コース」を実現している女性の特徴を見ると、若い世代、北陸などの中部地方や九州地方居住者、高専卒や大学卒 (共学)、正規雇用者、母親も「両立コース」、実家と同居・近居、義理の実家とは別居 (若い世代では逆に同居・近居) が多くなっていった。

つまり、女性が仕事と家庭を両立することへの意識が高い社会 (世代や地方、家庭環境) で育ち、両立に関わる環境 (職場の制度や家庭での手助け) が整っている女性ほど、両立を実現できている。また、高専卒など専門性の高い仕事に従事しやすい学歴も有効のようだ。一方で、これらの条件が整っている女性は決して多くないために、「両立コース」の実現度が低い現状がある。

仕事と家庭の両立という話題は、女性の問題として語られがちだ。しかし、子育てが落ち着いて、しばらく後には親の介護という問題が生じる。実は、この 10 年余りで介護の状況は大きく変化している。厚生労働省「国民生活基礎調査」によると、2000 年代初頭は、同居の主たる介護従事者で圧倒的に多いのは嫁であった。しかし、嫁の割合が低下する一方、息子の割合が上昇することで、現在では息子が嫁を上回るようになってきている。そして、男性が仕事と介護の両立をしやすい環境を考えた際に必要なものは、実は時間短縮勤務制度や月単位の長期休暇など、現在、育児中の女性が利用しているものと同様だ。また、介護との両立においても、家族を含め何らかの手助けが必要だ。

つまり、女性が理想のライフコースを歩むための諸条件は、実は女性だけでなく男性も、皆にとって必要なものだ。「女性の活躍推進」政策や「働き方改革」の後押しもあり、現在、働き方に関わる制度や慣習は改善傾向にある。まだ、いくつかの課題はあるが、まずは「女性だけでなく男性も含めて、皆にとって必要」という認識を強く持つことが必要なのではないか。